

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ところで、言語とはそもそも何だろうか。この問いに対する一般的な回答は今日、大きく二つに分けられよう。まず言語は一方で、「コミュニケーション・ツール」という言い方が代表するように、意思疎通の手段ないし情報伝達のための道具と広く考えられている。街を歩くと否が応でも目に入るさまざまな宣伝や案内の文句、あるいは家でテレビを点ければ次々と目と耳に飛び込んでくる言葉、これら私たちの日常生活を覆っている言葉のほとんどは、情報を伝達するための道具として発せられているのではないだろうか。また、すでに日常化した電子メールの遣り取りによるコミュニケーションにおいて、ほとんどの場合言語は意思疎通の手段と見なされていよう。そして、「グロービッシュ」という言葉もあるくらい、「グローバル」な「コミュニケーション・ツール」として英語が有用だと広く考えられているからこそ、あれほど多くの人々が英語の「コミュニケーション・スキル」を高めようと思うのだろうか、日本の政府も英語教育の拡充と早期化を進めようとするのだろうか。

しかし他方で、言語を情報伝達の道具と考えるプラグマティックな言語観が一般化し、また「グ

ローバリゼーション」の進展とともに「グローバル」な「コミュニケーション・ツール」としての英語への注目度が増してくると、それに対する反動として、諸民族の文化的アイデンティティの根幹をなす一つの言語が実体として存在するという言語観が、声高に主張されるようになる。日本でも数年前に起きた「日本語ブーム」も、その現れであろう。そのようなナシヨナリスティックな言語観の持ち主は、それ自体として存在すると見なす言語を純化しようとし、さらに他言語の脅威からそれを擁護しようとする。例えば、最近の日本語の用法の変化を「乱れ」として問題視し、学校教育において英語の比重が高まることを「英語帝國主義」と非難するのである。そうまでして一個の実体としての言語に自分の拠り所を求める言語観は、まさに「グローバルゼーション」のただなかで、以前よりも多くの共感を得ているのではないだろうか。

このように民族の文化的アイデンティティの源泉として、独特の純粋な言語がそれ自体として存在するという言語観にしても、言語を「コミュニケーション・ツール」と割り切る言語観にしても、言語についてのある見方を共有している。両者とも、一個の言語が体系として存在すると考えてい

るのだ。今日一般的な二つの言語観は、体系的な統一体としての言語の实在を想定する見方を共有しているのである。そしてそのような見方は、それほど古くからあるものではない。諸言語の語彙や文法が、国民国家の言語の語彙や文法として整備され、教育されるようになる近代の産物なのである。明治期以来「国語」として日本語が作り出されていく過程をたどり、そこに関わった人々の思想を浮き彫りにした『「国語」という思想』において、イ・ヨンスクはこう述べている。「したがって、言語が人間の話す行為から離れて存在する実体として想像されることと、言語がコンテクストから任意に抽出することのできる中性的な道具であると認識することは、ひとつのコインの裏表の関係をなすといえる。その点からいえば、言語を民族精神の精髓とみなす言語ナショナリズムと、言語をあくまでコミュニケーシヨンの手段としてしか考えない言語道具観はおなじ言語認識の時代の産物なのである。」さらに、一個の統一体としての「言語」を想定する近代的な言語観のもとでは、言語によるコミュニケーションは、「仲間内」に閉塞し、そこから異質な他者が排除されてしまう。言語を自己の民族的アイデンティティの核心とする立場からするなら、例えば「日本語

が外国人にわかるはずない」ということになるし、言語を意思疎通の手段と考えるにしても、コミュニケーションの相手になるのは、道具としての言語を使いこなせる者だけということになる。私たちは、あまりにもしばしば排他的な体系として言語を想定し、それを用いることで、その言語を共有しない他者たちを排除してしまっているのである。しかし、例えば「多文化共生」として目指されているのは、何よりもまず、言語を共有しない他者と共に生きることではないのだろうか。私たちが、言語そのもののうちに、そのような他者[Ⓐ]と応え合う力を見いださなければ、「共生」へ向かうことすらできないはずである。そのためにも近代的言語観が相対化されなければならない。

(引用先 柿木伸之『共生を哲学する―他者と共に生きるために』)

問 傍線部④「他者と応え合う力」は、どのような言語観、言語行動の中に宿ると考えられるか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

- ① 言語を民族的アイデンティティの核心とする立場。
- ② 言語をコミュニケーションの手段と考える立場。
- ③ 一個人が異なった言語の間を機会に応じて動き回ること。
- ④ 他者の考えを知るために未知の言語で書かれた書物を翻訳すること。
- ⑤ 他者とのあいだに言葉を交わし合う回路を切り開こうとする立場。